

## 5) 黒あざ、茶あざ、青あざ（母斑）など

あざの色はメラニン色素の深さや量で決まります。メラニン色素を作る細胞が深い位置にあって深い場所にメラニン色素が多くある場合は、蒙古斑のような青いあざになり、浅いところに多い場合は茶色なあざになり、浅いところから深い所まである場合には黒いあざになります。お尻にある蒙古斑は成長するに従って徐々に目立たなくなりますが、同じ青いあざが顔や手足にある場合にはなかなか消えなかったり、場合によっては濃くなってきたりします。自然に消えないあざは本人やご家族の希望によりレーザーや手術治療を行うことがあります。レーザー治療はレーザー光線でメラニン色素とメラニン色素を作る細胞を焼灼するため、青いあざには効果がありますが、茶色や黒色のあざでは目立つやけどの跡が残ることがあるので、あまり良い適応ではありません。あざはメラニン色素を作る細胞が増えていますので、紫外線などが当たる事により通常徐々に濃くなってきます。生まれつきのあざが悪性化する事はほとんどないとされていますが、あまり大きなものや形が不整なものでは悪性化する事もありますので、注意が必要になります。

大きな母斑であっても皮膚の伸展性の良い乳幼児期から分割切除をする事で大きな傷跡を残す事なく形成する事ができる場合があります。



色素性母斑



手術後6年



前額部の母斑細胞性母斑



母斑を2回に分けて分割切除



膝の色素性母斑



植皮手術後 3 年

分割切除症例



右前腕母斑



1 回切除後



2 回目切除後



腰部から臀部の巨大母斑



母斑を4回に分けて分割切除